

共生

奈良県生協連

2018年 7月

NO.109



第29期奈良県生協連総会



Peace Now! 奈良2018 (奈良女子大内に残る奉安殿)



もくじ

奈良県生協連第29期通常総会	1・2
会員生協からの報告	3・4
おじゃましました～ならコープの巻	5
環境のページ	6

Peace Now! 奈良2018	7
特定非営利活動法人なら消費者ねっと総会	8
ならシニア元気フェスタ・フードドライブin平群他	9
3・11を忘れない	10

奈良県生協連 第29期通常総会を開催しました

2018年6月23日 奈良ロイヤルホテル

6月23日、奈良県生活協同組合連合会第29期通常総会を開催しました。2017年度事業報告と18年度計画・予算案等すべての議案が全会一致で承認されました。会員生協組合員・役職員と、日ごろから協力連携していただいている行政・諸団体からも多数ご臨席賜り、合わせて100人が一堂に会して奈良の生協運動の新たな一年のスタートを祝いました。



生協連 森会長



奈良県 田中課長



森林組合連合会
田中専務



県社協 竹内常務

森宏之奈良県生協連会長は開会あいさつの中で、「平和を守り、みんながたすけあう共生の社会をつくることをめざして、仲間と連携の輪をひろげたい」と述べました。またご来賓を代表して奈良県消費・生活安全課課長田中利亨様より「生協の要の組織としての役割と、食の安全や消費者問題における取り組みにも期待します」とのご祝辞を頂戴しました。奈良県森林組合連合会の田中俊雄代表理事専務様、奈良県社会福祉協議会常務理事の竹内輝明様からもそれぞれお祝いの言葉をいただきました。

議長にならコープ代議員の高良光江さんが選出され議事に入り、議案の一括提案と各会員生協の活動報告を行いました。代議員27名中、実出席24名、書面議決3の合計27名の出席で採決し、全議案が全会一致で可決成立しました。

承認された議案

- 第1号議案 2017年度事業報告・決算関係書類報告承認の件
- 第2号議案 2018年度事業計画及び予算案決定の件
- 第3号議案 役員選任の件
- 第4号議案 役員報酬決定の件



司会の山原縁さん



議長の高良光江さん

ご臨席いただいた来賓の皆様 (順不同)

- ・奈良県くらし創造部消費・生活安全課
課長 田中 利亨 様
係長 夏秋 智行 様
主任主査 細川こずえ 様
- ・奈良県森林組合連合会 代表理事専務 田中 俊雄 様
- ・奈良県社会福祉協議会 常務理事 竹内 輝明 様
- ・日本生活協同組合連合会関西地連 事務局 村田 亨 様
- ・奈良県消費生活センター 所長 上中 三恵 様
- ・近畿労働金庫 地域共生推進室長 浦田 和久 様
- ・特定非営利活動法人なら消費者ねっと 理事長 北條 正崇 様
- ・公益財団法人奈良YMCA 代表理事総主事 三枝 隆 様

寄せられた祝電メッセージ 60件

ありがとうございました。

よろしくおねがいします!

新任理事の皆様



新任副会長
中井 信司さん
奈良県労済生協



新任理事
城本 壘さん
生活クラブ生協



新任理事
西田 有希さん
奈良県高専生協

お疲れ様でした!

今期で退任の皆様



退任理事
立石 昭彦さん
生活クラブ生協



退任理事
山原 縁さん
奈良県高専生協

2018年度の役員体制

役職	氏名	所属
会長	森 宏之	員外
副会長	中井 信司	奈良県労働者共済生活協同組合
専務理事	辻 由子	市民生活協同組合ならコープ
理事	中野 素子	市民生活協同組合ならコープ
理事	小松原 尚	奈良県立大学生協同組合
理事	柏原 勇介	生活協同組合コープ自然派奈良
理事	加藤 由美	奈良女子大学生協同組合
理事	石間奈穂子	奈良教育大学生協同組合
理事	城本 壘	生活クラブ生活協同組合
理事	仲宗根迪子	奈良県医療福祉生活協同組合
理事	山中 教義	市民生活協同組合ならコープ
理事	西田 有希	奈良工業高等専門学校生活協同組合
監事	稲津 和之	奈良県労働者共済生活協同組合
監事	松村 由美	市民生活協同組合ならコープ

2018年度の重点課題

- 協同組合の理念を広げ協同の心が息づく取り組みをすすめます
- 諸団体と連携・協働し、安心して暮らせる地域共生社会づくりに参加します
- 平和とよりよいくらしの実現のため社会的諸課題を学び考える場をつくります
- 会員生協の交流と連帯を強めます

～懇親会では 活動紹介や情報交換で参加者が交流しました～

総会終了後は懇親会で支援団体の皆さまや会員同士が交流しました。ご来賓の近畿労働金庫地域共生推進室浦田和久室長からは、協同セクターとしての取り組み紹介、なら消費者ねっと北條正崇理事長からは、日頃の協力への感謝と今後の取り組みなどについて、それぞれご挨拶をいただきました。今年も大学生協の学生委員が大勢参加し、多世代にわたってお互いの活動についての会話がはずみました。

恒例となった労済生協の皆さんによるたのしい「全労済クイズ」など工夫を凝らした発表もあり、笑顔あふれる情報交流がすすみました。



懇親風景



司会の柏原理事



近畿労金 浦田室長



なら消費者ねっと
北條理事長

会員生協からの報告

奈良県医療福祉生活協同組合

福山 明浩さん

2017年度は経常剰余金が予算を超過し黒字を計上することが出来ました。組合員と役職員が地域へチラシを配り健康診断など検診・診療を推進し健康づくり運動に取り組んできました。その結果一日当たりの患者数が大きく伸び黒字につながりました。しかし奈良市新診療所開設は所長医師の確定が難航、昨年末一旦白紙にすることになりました。組合員活動では橿原市に新しく橿原南地域委員会が立ち上がり、五つの地域委員会が地域で健康づくり活動をすすめました。「すこやか塾」は年3回開催しました。機関紙の手配りボランティアは208人になり3,626人の組合員宅に年4回医療福祉生協の情報を届けることができました。秋の「組合員交流会」は学習テーマを「特定健診」として、健診によってわかることを学びました。健康チェック・健康講座は87件、のべ1,967人の参加がありました。



生活協同組合コープ自然派奈良

奥 章子さん

コープ自然派奈良ではたくさんのビジョン活動が行われています。その中から奈良の生産者さんとの交流イベントを3つ紹介させていただきます。1つ目は大紀コープファームさんのJAS有機レモンを使った「塩レモン」作りです。大人気の商品(塩レモン)を生産者さんにお越しいただき作り方を教えていただくという企画でした。2つ目は参加者の皆さんと月ヶ瀬へお茶の生産者葉香製茶さんまで出かけ小雨の中お茶摘みを体験しました。お茶の豆知識や無農薬栽培の難しさなどのお話を伺いました。いろいろとお話できた中で、「生芋から作るこんにやく作り」のイベント開催が決まりました。コンニャク芋を持参いただき、生芋からのこんにやく作りを教えていただきました。



今年度もコープ自然派奈良ではたくさんのイベントを企画しています。Facebook等に活動を案内していますので、一度イベントにお越しください。

奈良県労働者共済生活協同組合

吉成 彰一さん

保障の生協として病気けが地震、台風、車、様々なりスクに対して保障を提供しています。今年度は全労済全国組織60周年記念の年となり「文化フェスティバル」としてミュージカルのつどいなど様々な活動を開催しました。また推進活動として奈良県下のco-op火災共済担当者研修会を開催、他生協との連携の一助となりました。ならコープ店頭や奈良県医療福祉生協イベントで防災・減災への啓発と住まいの保障点検活動に取り組めました。大学生協と連携した卒業予定組合員を対象に住まいる共済紹介活動を展開し、その結果住まいる共済については加入を増やすことが出来ました。



昨年の台風被害では奈良県下200件の罹災受付に一軒一軒訪問し保障をさせていただきました。今回の大阪の地震に対しても一日も早く共済金をお支払いできるように精一杯努力していきたいと思っております。

生活クラブ生活協同組合

甲斐 京子さん

奈良県生協連の助成金を利用し組合員対象に「たねと食とひと@フォーラム」の西分千秋さんを講師にお迎えし“遺伝子組み換え食品を食べているの？食べていないの？”と題して遺伝子組み換えの基礎と現在の状況を学習しました。1997年以来疑わしいものは食べたくないと遺伝子組み換え反対運動をしてきましたがNon-GMOを取り巻く状況は厳しいものになっています。また、なたね油の生産者「米澤製油」と交流会を開催し、遺伝子組み換えでない国産なたね油30パーセントを使用している意味を学びました。第4回春フェスタを初めて外の施設で開催しました。大勢の参加と新しい組合員の加入がありました。年間を通して生産者との交流会を開催しています。組合員にとっては生産者から直接情報を得られる交流会は貴重な機会だと考えています。



奈良工業高等専門学校生活協同組合

下津 愛未さん
眞田 将希さん
菊田 一真さん



生協学生同好会は年に数回の還元活動を中心に20名で毎週火曜日放課後に活動しています。還元企画の準備と開催、一言カードの返信などを行っています。また学生執行部と合同で新入生歓迎会を開催しています。1年生が企画の立案、2年生3年生はスタッフとして活動し、当日は123名の参加がありました。年に2回春と秋に組合員の自転車が無償点検しています。還元企画として毎年7月にかき氷企画を行い、同好会でシロップを考案したりポスターを作ったりしています。3日間で375杯の提供が出来ました。食生活相談会は組合員の健康促進のため開催、当日は栄養士さんに相談することもできました。タヌロー喫茶は普段あまり出ることのないケーキなどを575個提供できました。今年も昨年を踏まえて企画をより良いものにしていきたいと思っています。

奈良教育大学生生活協同組合

津田 真歩さん



奈良教育大生協は「組合員のより良い生活を実現するために、誇りをもてる活動にします」「一人ひとりの想いを共有し、組合員でよかったと実感してもらえるような活動にします」を方針に活動してきました。6月と12月の“なきょうさい”では自転車点検を行いました。7月のオープンキャンパスウィークは、昨年から学校に依頼され協力して開催しています。学校からも信頼され認められる団体になってきたと実感しています。また夏祭りは地域の方に感謝を伝える企画となっています。1月から4月は新学期活動として受験生や新入生の不安解消や友達作り、履修相談を行っています。年間を振り返り部内の連携を強めることで生協からの発信力を強め、声を集める活動を増やしました。企画の内容をより発展させ、新しい取り組みを行い、次年度に生かせる活動になりました。

奈良県立大学生生活協同組合

四方 遼祐さん



17年度奈良県立大生協方針は「組合員ひとりひとりの生活のそばにある身近な生協を目指します」でした。それをもとに学生委員会の方針「学生生活と共にある、生きた生協、みんなの生協」で活動してきました。

学生棚を毎月購買の中に、学生目線で商品を選び作っています。今年度は特別編として「お菓子総選挙」を開催しました。お菓子の選挙ポスターを作り組合員に投票してもらい上位7つを割引して販売する企画です。学生棚の商品を学生委員だけでなく組合員みんなで決めることが出来ました。これは方針を形にする企画となりました。また社会的課題をSNSなどを使ってお知らせしたり、共済についてみんなで学びました。18年度は「協同の精神を大切に、組合員全員で作上げる生協を目指します」をもとに「常に組合員の中心にある生きた生協、つながる生協」で活動していきます。

奈良女子大学生生活協同組合

中桐 侑美さん



奈良女子大生協は大学院、附属中等教育学校を含め3800名の組合員で構成されています。学生委員会はWINDYという愛称で活動しており、昨年は1回生から3回生まで100名以上が4つの部局に分かれて活動しています。そのひとつとして剰余金を還元企画用に積み立て「ありがとう大抽選会」を開催しました。レシートを貼った応募用紙1枚で1回抽選会に参加でき、空くじなしでチャージ券、割引券、交換券に応募用紙を引き換えることが出来ました。還元と日頃のご利用の感謝を伝えるだけでなく、生協の存在の意義についても理解してもらえる企画となりました。今年の4月22日に大学生協は設立50周年となりました。スローガン「みんなで考えみんなで作る奈良女子大生協～ひとりひとりの想いをカタチに～」のように組合員全員で活動していきたいと思っています。

市民生活協同組合ならコープ

山内 美和子さん



誰かの笑顔につながる買い物合言葉にエシカル消費を学習しました。10月11日をエシカル月間として機関紙あをがきやコメント2で組合員へエシカルのマークの意味などをお知らせしました。またコープ会通信4回を使いエシカル消費を話のタネとして話題を提供しました。組合

員のつどいでは「平和とよりよいくらしのために」をテーマにヒバクシャ国際署名とエシカル消費を中心に話し合いました。また職員は工場見学を通して学んだことをエシカル消費として熱く語ってくれました。核兵器禁止条約の採択、ICANノーベル平和賞など平和への波が大きくなるなかヒバクシャ国際署名2万筆を目指して取り組みました。また、東北支援バスの終了にあたり「復興支援を考える 忘れない3・11」の報告会を行いました。新たな支援の在り方を考え、これからも取り組んでいきたいと思っています。

おじゃましました //

～ならコープの巻～

アースデー2018 in なら

ひとりひとりの小さなエコ! つながり、みんなの大きなエコ

昨年まで、飛鳥歴史公園で開催していたならコープのアースデー。今年度のアースデーは、家庭や地域で小さなエコ行動が出来る取り組みとし、エコチャレンジ宣言や生駒市西畑町の棚田を会場に、菜の花まつりの開催や環境イベントの紹介など多様な参加の仕方を提案する取り組みをされています。

その一つとして「環境落語会」を開催するとお聞きし、4月24日、ならコープ本部におじゃましました。

平常は会議室の会場に、落語の高座が作られ、後方には、ならコープ環境保全活動助成団体のパネルや、環境川柳が掲示されていました。

主催者の中野理事長のあいさつのあと、奈良市出身の桂文鹿(かつらぶんろく)さんが、「酒の粕」と「神相撲風景」という落語を披露。会場は笑いで包まれました。71名の方が参加され、後半の環境保全体の方々との交流会は、熱気に満ちあふれました。



桂文鹿さんの落語 会場はいっぱい



エコ川柳の展示や、エシカル商品の展示

「アースデー」は1969年にユネスコで概念が定義され、1970年にアメリカのG・ネルソン上院議員が4月22日に環境問題についての討論集会を開催することを呼びかけ、「地球の日」とすることを宣言し、アースデーが始まったそうです。最初は、10年ごとに開催されていましたが、1990年以後は毎年開催されることとなり、日本でも1990年から取り組みが開始されました。

ならコープのアースデーの取り組みは、1990年からの事業所近くの川のごみ拾いや河川の汚染状況調査が始まりです。1997年からは、奈良県第一浄化センターでごみ拾いとイベントが開催され、その後、奈良公園周辺や飛鳥歴史公園と場所を移しながら、イベント型のアースデーが開催されてきました。

組員ひとりひとりが何か一つ環境に良いことを!

「エコチャレンジメニュー」の中から、環境イベントに参加する、環境にやさしい商品を選ぶなどの10項目から選択して宣言し、実践することを呼びかけられています。(写真：10項目に参加者がシールを貼ったパネル)



各店舗でも、アクリルたわし作り体験、奈良市ごみ分別ゲームなどを実施。その他、4月22日に菜の花まつり(生駒市西畑)、4月27日に東吉野つくばね発電所見学など様々な環境イベントが取り组まれました。

環境のページ



講演会「南極での再生可能エネルギー研究」

～第58次南極地域観測隊同行の現場から～

5月31日ならまちセンター(奈良市)にて、講演会「南極での再生可能エネルギー研究～第58次南極地域観測隊同行の現場から～」(主催：NPO法人サークルおてんとさん、共催：奈良県生協連・再エネ協同基金)が開催され、33名の方が参加されました。

生田依子先生(奈良県青翔中学校・高等学校理科教諭)からは、年1回しか届かない燃料や食料を人の工夫や知恵で大切に使用していることや、再生可能エネルギー(太陽光・風力)利用の取り組みや土壌による発電の研究の紹介がありました。また南極の珍しい気象現象(沈まない太陽)や動植物(ナンキョクオキア

ミ、ペンギン、コケ坊主など)を、映像をふんだんに使って紹介されました。

生田先生は、幼いころに科学雑誌を読んで、アムンセンにあこがれ南極に興味を持つようになったそうです。北海道大学に進学後、教員の道を選んだことで、南極で研究する夢はあきらめかけていた時、県立高校の教諭が、南極観測隊に同行したことを知り、再度南極での研究の夢をめざされました。「南極に行って研究することで、生徒たちと共同研究できる」と応募され、「昭和基地の汚水処理棟の汚泥の微生物が発電するのか確かめる」「昭和基地内の微生物の量が、場所によって異なるのか確かめる」の2つのテーマが採用され、派遣が決まり2016年11月から翌年3月まで観測隊に同行されました。現地での調査・研究データを、青翔中学・高校の生徒らの研究データと比較した共同研究の報告もありました。微生物による発電がもっと解明されれば可能性も広がります。南極にも温暖化の影響による生態系の変化が出てきているそうです。南極観測の予算が削減される中で、「継続観測の重要性をもっとお伝えしなければ。夢をあきらめず、それに向かって準備をしておくことが大事」と話されました。



アースデイ奈良2018が開催されました

(主催：アースデイ奈良実行委員会)

4月21日に暑いぐらいの晴天の中、奈良県庁前の奈良公園登大路園地にて、アースデイ奈良2018が開催され、観光客も含め約6000の方が来場されました。

会場は、フード&ランチ、学びのブース、ワークショップ、エシカルマーケットとテーマごとに約80団体が出展。舞台では、開催地の仲川げん奈良市長と実行委員の高校生のトークや、ダンス、演奏なども披露されました。舞台の音響の電源はならコープの蓄電池を借用されたそうです。

フード&ランチにはコープ自然派奈良、生活クラブ生協、学びのブースには、ならコープでんきが出展しました。行政(奈良県・奈良市)など啓発ブースもあり、初めてフードバンク奈良も出展され、それぞれの団体がPR活動をされていました。



コープ自然派奈良の出店



生活クラブ生協の出店



ならコープでんきの出店



会場の様子

Peace Now! 奈良2018が開催されました。

「平和」について「知り」、 身近な問題として「考え」、他の人に「伝える」

(後援：奈良県生協連)

6月3日奈良女子大学、奈良教育大学、奈良県立大学の生協学生委員11名による実行委員会が企画・主催する「Peace Now! 奈良2018」が開催され、学生委員等45名、ならコープや奈良県生協連から6名が参加しました。

3回目となる今回は、参加者がPeace Now! 奈良2018をきっかけに、「平和」について「知り」、身近な問題として「考え」、他の人に「伝える」ことができるようになることを目的に開催されました。

9時に奈良教育大学生協食堂に集合し、アイスブレイクの後、「奈良ご近所さんツアー!」として、5班に分かれ奈良聯隊のあった奈良教育大構内の弾薬庫、奈良公園、奈良女子大学構内奉安殿や奈良県立大学周辺など日頃は見落としている戦争遺跡を回りながら、戦争や平和について考えました。各戦争遺跡のところではポイントマン(実行委員)が事前に、奈良の戦争遺跡に詳しい歴史教育者協議会会員の吉川好胤先生から、それぞれの遺跡について学んだことを熱心に説明しました。

終点の奈良県立大学生協で昼食交流の後、県内在住の鈴木知英子さんから「戦争は他人事ではない」のテーマで、女学生の時に王寺駅で米軍の機銃掃射を受け重傷を負った体験を聞きました。鈴木さんは「戦争は他人事ではない」「戦争は大切な命を奪い合い、人間としての良心もなくなってしまう。もう2度と起



奈良教育大学構内に残る元奈良聯隊の弾薬庫

こしたらあかん」と話されました。

その後、「今日感じた率直な思い」「戦争・平和に関する自分の考え」を伝え、他の参加者の意見を聞く「ワールドカフェ」では、「長崎・広島については知っていたけど奈良にもあったことを知った貴重な体験だった」「知ったなら伝えて行こう」「記憶と記録の両方の伝承が大切」「平和について学んだことを次の世代につなげていくこと」などの感想が出されました。

最後に、「これからの平和について考える時間」として、「多面的多角的なものの見方考え方を身に付け自分の意見を持つことができること」を目的に、実行委員自身が作成した「新聞記事」に各自が見出しをつけ意見交換を行い、18時頃まで熱心に話し合いました。



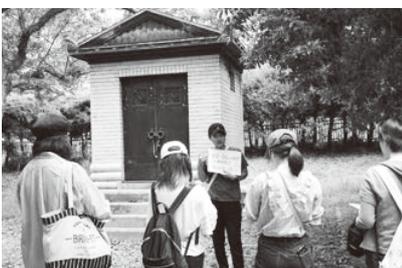
「奈良で平和について考える1日」と説明する金実行委員長



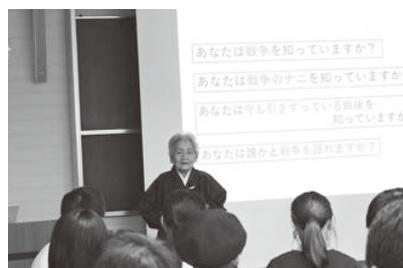
レンガ造りの食料などを保管する糧秣庫



「記録と記憶を伝えていくことが大切と話す」ポイントマン



奈良女子大構内に残る奉安殿



機銃掃射で重傷を負った体験を語る鈴木さん



ワールドカフェの様子

特定非営利活動法人なら消費者ねっと第3回通常総会・記念学習会が開催されました

どうなる? 若者のくらしと社会

県内の消費者や弁護士、消費生活相談員などで構成する、特定非営利活動法人なら消費者ねっとの第3回通常総会が6月9日、奈良弁護士会館において開催され、北條正崇理事長が1年間の成果の報告と謝辞を述べた後、議事が行われ全会一致で全議案が承認されました。

合わせて行われた記念学習会「どうなる? 若者のくらしと社会～成年年齢引き下げから考える～」には60名の参加者が集まり、適格消費者団体消費者支援機構関西の常任理事で弁護士の二之宮義人氏による学習講演を聴きました。奈良県と奈良県生協連の共催と奈良市の後援を得て開催され、県消費・生活安全課田中利亨課長はじめ、行政や関係機関、消費者団体からの参加がありました。

講演は、民法改正の「成年年齢引き下げ」によって引き起こされる様々な影響に焦点をあて、講師の二之宮先生はいろいろな角度からこの問題について詳しく講義されました。現在の20歳から18歳への引き下げは予定では2022年には施行されるとのことですが、若者への消費者被害の多発が心配されるところです。「大人と子どもの線引きは? なぜ18歳なのか? 禁止年齢や被選挙権などとの整合性は? 大人としての責任をどの時点で付与するのか? そもそも若者自身はどう考えているのか?」など、お話の中で多くの論点や課題があることがわかりました。消費者教育と被害未然防止対策の強化が急務であると同時に、若者がどのように社会参画をし、どのような社会を描いていくのかを社会全体でしっかり考えることが重要であると話されました。

講演の後、なら消費者ねっとが2017年度に奈良県から受託した消費者利益擁護支援事業の「事業者への改善要請活動」について竹内大敬理事と小泉隆志副理事長から報告がありました。取り扱った6件の事案の中か

～成年年齢引き下げから考える～



ら「未成年者契約取消制限の事案」と「初回低価格を強調する定期購入」の2件が報告されました。

また、昨年度からなら消費者ねっとと活動連携している奈良女子大学消費者問題研究会BEACSから山田斐奈子さん、菊池美智さん、高久夏穂さんの3人が活動紹介をした後、DVD「奈良女子大生と学ぶ消費者トラブル～身近に潜むワナを見逃さないために～」の上映がありました。しもいちテレビとの共同制作で、ねっとの会員団体でもある「グループあんあん」とともに自らも出演して、点検商法や還付金詐欺などの啓発コトを演じています。

最後に奈良県の田中課長が挨拶され、奈良県が導入した高校生向け教材「社会の扉」にも触れながら、消費者教育の充実と被害の未然防止に向けて、今後の連携と協力を呼び掛けました。



講師の二之宮先生



北條理事長



BEACSのみなさん



奈良県消費・生活安全課
田中利亨課長

フードドライブ in 平群

5月27日10:00～12:00 平群町中央公民館にて平群町ごみ減量フェスタが開催され、行政がフードドライブ活動に取り組まれました。集まった食材は、お米25kgやそうめん、レトルト食品、缶詰、コーヒーなど合計49.6kg。フードバンク奈良に寄贈されました。フードバンク奈良から、地元の福祉作業所や近隣のこども食堂などに届けられました。残りはこれから実施予定のフードドライブ(6/9ならコープのお店、6/21～24生駒市環境フェスティバル)による食材と合わせて、寄贈先の要望などを考慮して仕分け、発送作業が行われる予定です。2017年度(1月～3月末)で1.2トン、2018年4月から今回までで148.3kg回収し必要とされている方にお届けしました。



平群町でのフードドライブ食材

ならシニア元気フェスタに参加しました



5月12日橿原公園など8市町村を会場に、高齢者が健やかでいきいきと暮らし続ける健康寿命日本一の県をめざす取り組みとして奈良県主催の「ならシニア元気フェスタ」が開催されました。還暦野球やグランドゴルフなど文化種目の計21種目に県内在住60歳以上の男女が出場しました。

奈良県生協連も奈良県医療福祉生協がめざす健康づくりの取り組みとして「いつでも健康チャレンジ」を実施しました。奈良県医療生協の健康チェックは134名、奈良県生協連の健康チェックは76名子ども5名が参加されました。

2018年度 第1回 生協・行政協議会を 開催しました

5月17日 奈良商工会議所

2018年度第1回生協・行政協議会を5月17日に開催し、奈良県消費・生活安全課の田中利亨課長他3名の職員の方と奈良県生協連役員等12名が参加しました。はじめに奈良県から食品安全や消費者行政など課の取り組みの説明がありました。そのあと、奈良県生協連の本



年度方針に続き出席役員からそれぞれの会員生協の取り組みを詳しく紹介し、行政・生協双方が互いに理解を深めることができました。そして安心して暮らしていける地域社会づくりに向け、県行政と生協との連携について意見交換が行われました。

3.11を忘れない

みやぎ生協から
被災地・宮城のいまをお伝えします

災害援護資金で 生活再建を果たした利用者に寄り添う

2018年6月5日

災害援護資金(※)は、自治体が被災者に対し、生活を建て直すための資金を貸し付ける制度です。東日本大震災では、多くの被災者が制度を利用して生活再建を図りました。一方、昨年から償還(返済)が始まったことで様々な課題も浮上してきています。

石巻市は7年間で3,049世帯に約64億円の貸付を行ないました。1世帯当たり約210万円の貸付額です。返済は6年の猶予期間を過ぎたところから始まり、償還期間も借りた時から13年以内と決まっています。

石巻市生活再建支援課は、「納期を待たずに繰上償還をするなど、できるだけ早く返そうという動きがある一方で、“返せない”と言う方々も顕著化してきている」と話します。

“今の生活のなかで返していくのは難しい”といった相談が毎日寄せられることから、まだ生活再建が終わっていない人や少ない収入で暮らさざるを得ない人が多数いることが分かります。

返済には一定額を年賦あるいは半年賦で納付する2つの方法が定められていますが、石巻市は経済的に困窮している利用者が一度に大金を用意するのは難しいだろうと考え、早い段階から月1回返済

の少額償還を取り入れました。またコンビニ収納や口座振替など少しでも返しやすいように環境を整えています。

回収には相応のコストがかかります。また、貸したお金が返ってこない場合は、市が立て替えて県と国に返済をしなければなりません。「利用者の返済を免除するという方法もあるが、自治体としては借りた方と借りなかった方の間の公平性を保つことが重要。“減免になるならあの時借りておけばよかった”と不公平感を抱かれないように十分に注意したい」。

返済が困難な利用者への対応、長期にわたる回収の取り組み、行政としての公平性の確保。課題は山積ですが、市の生活再建支援課は、「災害援護資金を使い、やっとの思いで家を建てた方々が“お金を返せないから家を売る”とならないようにしたい。民間の貸付と違って福祉的な要素もある制度。最低限の生活だけは何とか維持できるような形で進めたい」と利用者に寄り添う姿勢を崩さずにいます。

※世帯主の負傷や住まい損壊で困窮した被災世帯に対し生活再建のために最大350万円を貸す制度。東日本大震災では無利子(保証人無しの場合は年1.5%)、償還期間13年(据置期間6年あるいは8年)等の特例が適用された。



石巻市日和山からの眺望。
ゆっくりとですが復興が進んでいるのが分かります。

情報提供／みやぎ生協

県連日誌

4月

- 2日 県の新年度体制に伴う訪問
- 5日 日本生協連関西地連運営委員会
- 5日 日本生協連2018年近畿地区総会議案検討会議
- 16日 なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議第3回設立準備会議

5月

- 8日 生協組合員理事交流会実行委員会

- 9日 2017年度末監事監査
- 12日 ならシニア元気フェスタ
- 15日 フードバンク奈良第1回ボランティアミーティング
- 17日 第1回生協行政協議会
- 17日 奈良県生協連第7回理事会
- 22日 奈良県知事公室次長(防災統括室長)との懇談
- 22日 奈良県立大生協総会
- 24日 ピースアクションをすすめる会
- 24日 奈良高専生協総会
- 24日 奈良教育大生協総代会
- 28日 県防災統括室と奈良県防災総合訓練に関する打ち合わせ
- 28日 奈良女子大生協総代会

- 30日 なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議第4回設立準備会議
- 31日 講演会「南極での再生可能エネルギー研究」

6月

- 3日 Peace Now! 奈良2018
- 9日 なら消費者ねっと総会・記念学習会
- 12日 ならコープ総代会
- 13日 生活クラブ生協総代会
- 15日 日本生協連第68回通常総会
- 16日 奈良県医療福祉生協総代会
- 22日 コープ自然派奈良総代会
- 23日 奈良県生協連第29期通常総会

お知らせ

子どもの貧困対策全国キャラバンin奈良

子どもの貧困対策への理解を広げ、より充実した支援体制を構築するきっかけの場づくりを進めています。子どもの未来を一緒に考えましょう!

●日 時：2018年7月28日(土)

第一部 10:00~12:30(全大会) パネルディスカッション「それぞれの立場から見る、奈良県の子どもの困りごと」

第二部 13:30~16:00(意見交換会) リレートーク「子どもたちを地域で見守るために、私たちができること」

●会 場：エルトピア奈良大会議室A.B

●主 催：公益財団法人あすのば

●参加費：無料(120名程度・申し込み先着順)

●申し込み/お問い合わせ：公益財団法人あすのば TEL 03-6277-8199 FAX 03-6277-8519

編集後記

日傘、水筒、大荷物を持って炎天下の道を延べ往復1時間以上は歩く厳しい季節です。でも世界には、往復丸一日以上かかったり、命の危険にさらされたりしながら、学校に通う子どもたちが沢山いることを思えば、こんな愚痴はとるにたりない小さなこと。そうだ、SDGsから考えよう!

(由)

「僕たちは、直接体験した方の戦争の話を聞く最後の世代にしないといけない。僕たちは、未来の世代に対して、戦争の語り部の最初の世代になってはいけない」などの学生の声に、還暦を超えても新鮮な感動を覚えたPeace Now!奈良でした。

(和)

先日、長男夫婦が友人たちと地域おこしをはじめた瀬戸内海の小さな島に行ってきました。島の人口35人。姫路港から30分。島の港の目の前の民宿が拠点。経営者が廃業し、建物を壊すには忍びなく若者たちがまかされた。長男と島のお年寄りとの会話を聞いて、何かできる可能性を感じました。

(順)

地震があった時「出口を確保しないといけない」とわかっていても何もできず廊下に立っていました。水や食料もメンテナンズできてないし、これではいけないと保存食を整理しようと思います。

(佳)